

評論家を目指す

ラチコヴスカヤ・アナスタシア

はじめまして。アナスタシアと申します。ロシアのシベリアの出身です。どうぞよろしくおねがいいたします。今日は、評論についていくつかの意見を述べたいと思います。まず初めに、皆さんに「評論とは何か」説明します。

私が目指す評論の対象はアートです。特に、歌詞と小説における分析、自分が興味深いことを見つけ、世間に発信したいです。そのために必要なのは、自分自身でアートの歴史と現代にあるものを学ぶことです。私は今まで言語学、翻訳、ドイツの文学等を勉強してきました。そして、夢を叶えるために来年からは東京芸術大学で言語学と音楽の総合的な歌詞の分析の研究をする予定です。今までは様々な展示会や美術館、展覧会などに行ったことがありますが、自分はまだ経験が足りないと思います。さらなる専門的な成長には実習やインターンシップもしたいです。私は、アーティストのバックグラウンドと作品に込められた思いを考え、芸術や社会に影響を与えたいと思っています。

ここでは、評論家であるヴァルター・ベンヤミンと、評論されたフィンセント・ファン・ゴッホについて紹介したいと思います。ベンヤミンは、プロとしてたくさんの作品を評論してきましたが、彼の友人であるベルトルト・ブレヒトの作品も分析しました。そして驚いたことに、現代では有名なフィンセント・ファン・ゴッホも生前に評論されていました。例えば、アルベール・オーリエという人物は彼の作品について評価し、「孤立者たち」という記事を書きました。

現代のインターネット社会は誰でも簡単に情報と自分のレビューを記入することができます。しかし、評論することとはそのクオリティそのものと同時に、多大な責任感を持たなければなりません。プロの視聴者もインターネット記事と比べて、評論の方に耳を傾けます。現代のインターネットの普及により、評論は身近なものではなくなっていますが、今後のブログ機能におけるフォーマットとコンテンツの成長によって、その危機を乗り越えていけると期待しています。また、新型コロナウイルスの影響でオンラインプロジェクトも活発になったからこそ、オンライン上のカルチャーイベントや情報に関心を持つ人が増えると思います。

それを考えると、評論が果たすべき役割は、言葉遣いの分析と時代の変化に伴う傾向を伝えること、また、作品と作者を紹介することです。特に、異文化交流が進んでいる

からこそ、^{こまかい}細かい^{ぶんせき}分析は^{だいじ}大事です。今と^{いま}将来の^{しょうらい}私^{わたし}にとって一番^{いちばん}大切なのは、そういう
^{さくひん}作品の^{おもしろさ}面白さと^{さっか}作家の^{どりょく}努力を^{つたえる}評論によって伝えることです。